

平安宮内裏内郭回廊発掘調査現地説明会資料

1994年6月25日

(財)京都市埋蔵文化財研究所

- <所在地> 京都市上京区下立売通千本東入田中町434-5
<調査期間> 1994年6月1日～6月末日(予定)
<調査面積> 約22㎡

1. はじめに

調査地の周辺は木造の民家が多い地域ですが、平安時代には、天皇の住いである内裏があり、数多くの建物が建ち並んでいました。

平安宮の内裏は、絵図や文献などからおおよその建物の配置を知ることができます。築地と回廊により二重に囲われた内裏の中には、紫宸殿をはじめとして仁寿殿・清凉殿・常寧殿などの建物が建ち並び、そこでは様々な儀式が行われたり、後宮の女性たちが暮らしたりしていました。

調査地は内裏を囲む内側の回廊(=内裏内郭回廊)西側部分(=西回廊)の南寄りにあたります。

2. 周辺の調査

調査地周辺は平安時代の遺跡がよく残っている地域で、今までにも平安時代の遺構を発見しています。

1963年度の下水管埋設工事に伴う調査では西回廊が初めて発見され、回廊の幅が約10.5mであることが分かりました。今から30年も前のことです。1968年度と1973年度の調査では、西回廊の外側部分が明らかとなり、1979年度の調査では、西回廊の雨落溝が南回廊の下を暗渠(あんきょ)になって潜っていることが判明しました。さらに1984年度の調査では、内郭南回廊正面の内裏の正門(外郭の正門は建礼門)である承明門跡で4回におよぶ地鎮の祭祀跡を発見しました。また1987年度の調査では、西回廊のすぐ内側にあった「藏人所町屋(くろうとどころまちや)」という建物跡も見つけています。

3. 調査の概要

内裏内郭回廊は、基壇の中央に築地塀を立ち上げ、両側に屋根を架けていました。築地塀の内側と外側を通行できるので、こうした構造を「複廊(ふくろう)」とよびます。ここを衛士(えじ)とよばれる兵士が交代で警備にあたりました。

今回の調査では、内裏内郭回廊の西回廊の内側部分を発掘しました。調査区の西端には、南北方向に基壇の地覆石（じふくいし）が並んでいます。地覆石は幅約30cm・高さ約25cm・長さ約60～90cmの凝灰岩の切石を用いています。内側部分には欠き込みがあり、最初はここに羽目石（はめいし）や束石（つかいし）が組み合わさり、さらにその上に葛石（かずらいし）がのって基壇となっていました。地覆石の東側には約70cmの幅で平たい川原石を敷き並べ、さらにその東側に細長い石を横向けに並べて、雨落溝（あまおちみぞ）を造っています。この真上にまで屋根の軒先が伸びていました。雨落溝の底は北側が南側よりも約10cm高いので、南向きに排水していたことが分かります。

その後、西回廊には大きな修築が加えられます。基壇は葛石・羽目石・束石が取り外され、地覆石が隠れるくらいの高さまで削られました。雨落溝も端の石まで埋められています。その際、雨を受けるためか、もう一列石列が加えられます。調査区で見られる最も東端の石列がこれに当たり、中には凝灰岩を割ったものが含まれているので、不要になった羽目石などを転用したと推測できます。修築の時期は、9世紀中頃から後半と考えています。

土盛の基壇となった西回廊は、何度か盛土が追加されますが、端を石で押えていないため、徐々に内側に崩れていったようです。追加された石列も埋まっていきました。そんなあるとき、大きな火災が襲いました。10世紀中頃のことです。基壇の内側の低くなった部分には、約30cmの厚さで炭や焼土が堆積していました。土器や陶器の破片、焼けた壁土なども含まれており、火災のすごさを物語っています。露出していた石列の一部も焼け焦げていることから、おそらく回廊本体も火に包まれたことでしょう。しかしながら、修復のときに削られたためか火事で焼け締まった面は明瞭には残っていませんでした。

その後、西回廊の内側部分は基壇の盛り上がりをわずかに残しながら、徐々に埋まっていったようです。

4. まとめ

今回の調査成果としては、平安宮造営当初の内裏内郭回廊の遺構を非常に良好な状態で発見できたことをあげることができます。豊臣秀吉の聚楽第（じゅらくだい）建設を筆頭として、後世の攪乱が著しい平安宮域の遺跡にあって、このことは本当に幸運でした。また、内郭回廊の修築の過程を順を追って確認できたことも成果としてあげることができます。今回の調査により、平安宮内裏の内部構造や歴史的な変遷の研究がさらに進められることとなるでしょう。

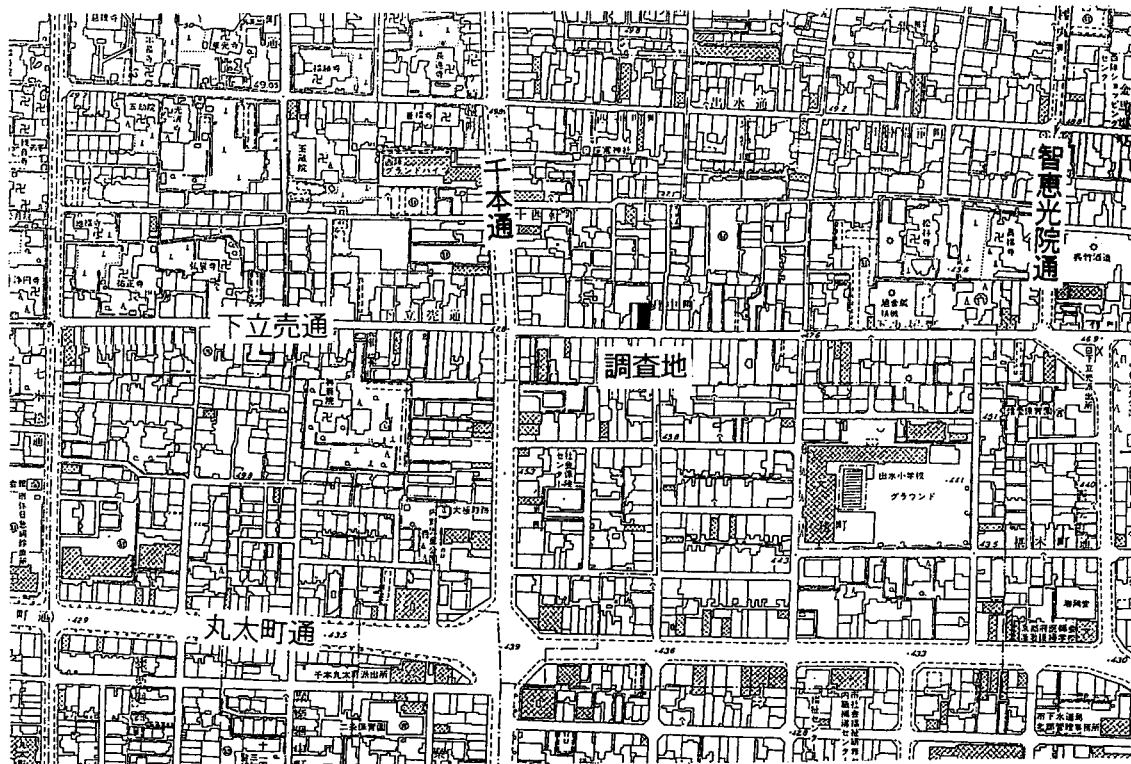


図1 調査位置図 (1/5000)

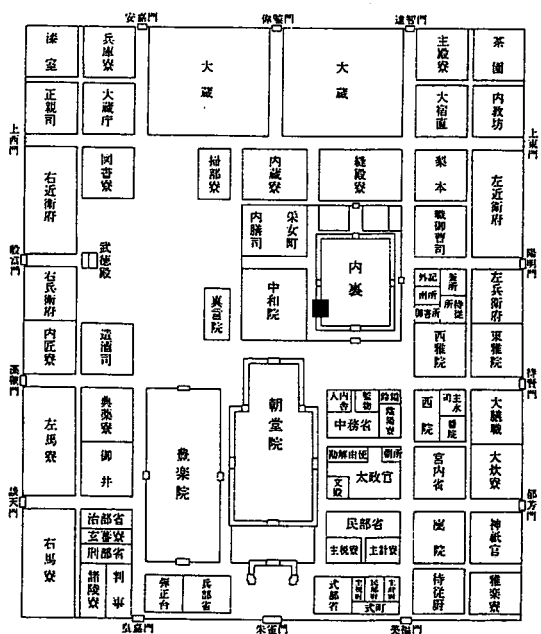


図2 平安宮推定復元図

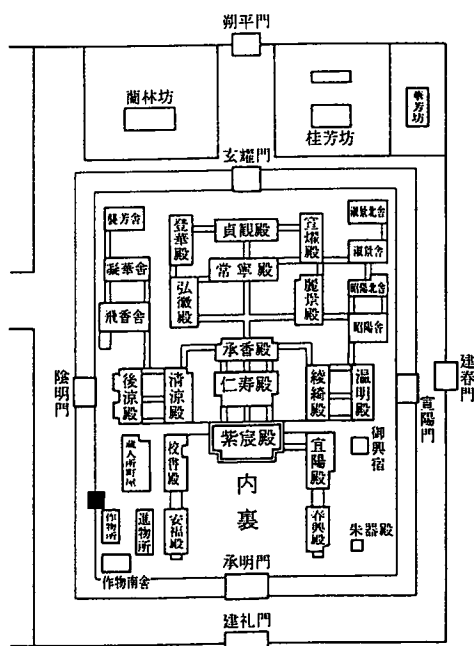
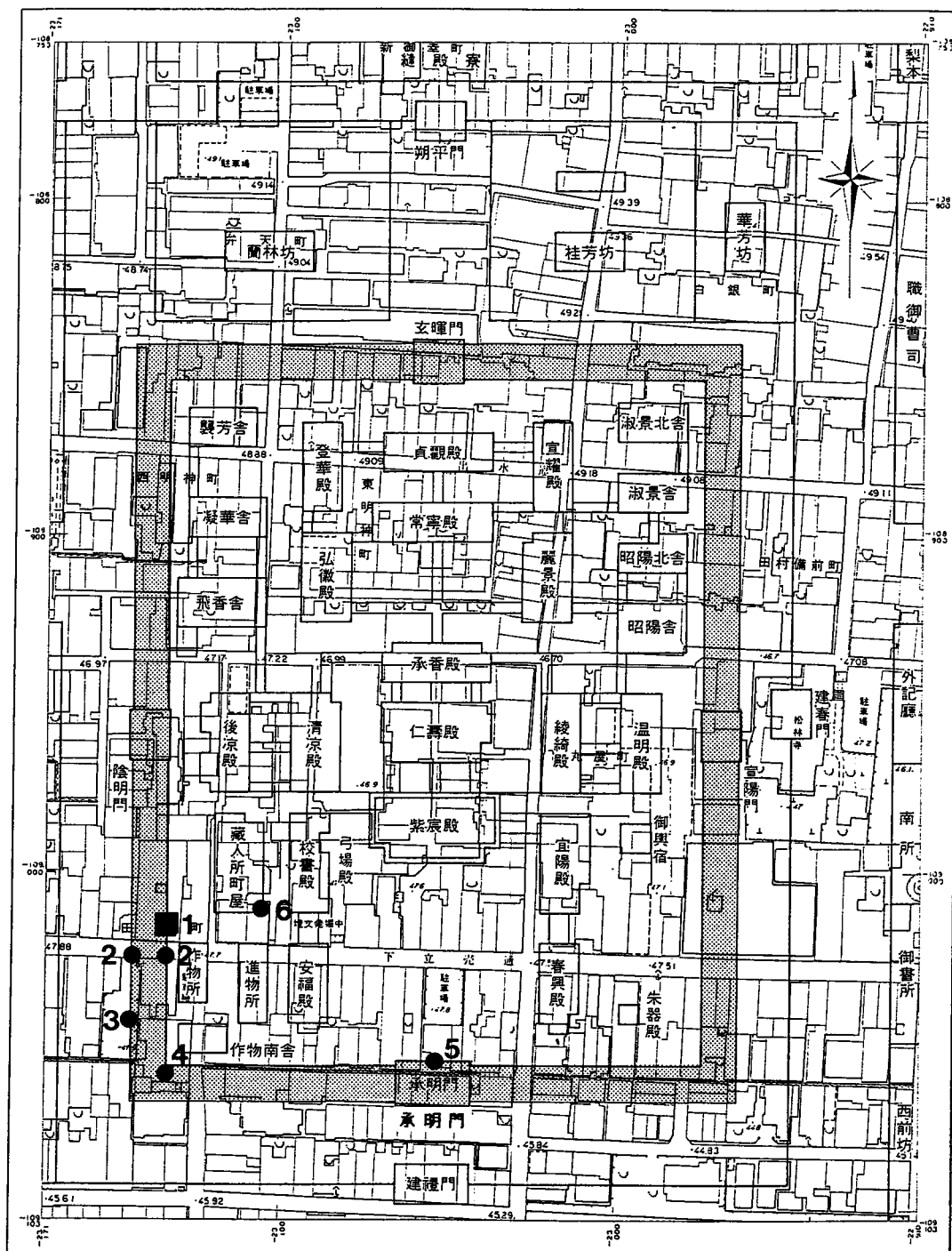


図3 内裏推定復元図



- | | |
|--------------------|-------------|
| 1 調査地 | 4 1979年度の調査 |
| 2 1963年度の調査 | 5 1984年度の調査 |
| 3 1968年度・1973年度の調査 | 6 1987年度の調査 |

図4 調査地周辺の調査（『平安京提要』付図に加筆）

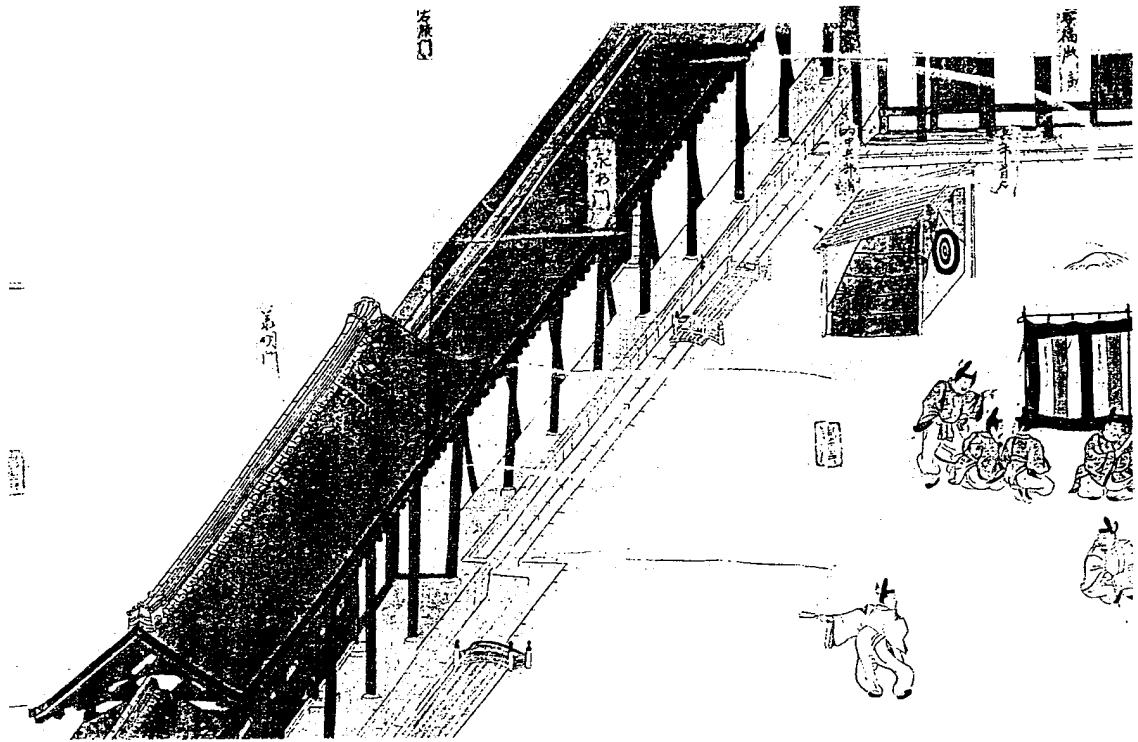


図5 『年中行事絵巻』に描かれた承明門と南回廊
 基壇の上に朱塗りの柱が並び、築地には白土が塗られる。
 屋根には檜皮が葺かれ、棟には瓦が見える。

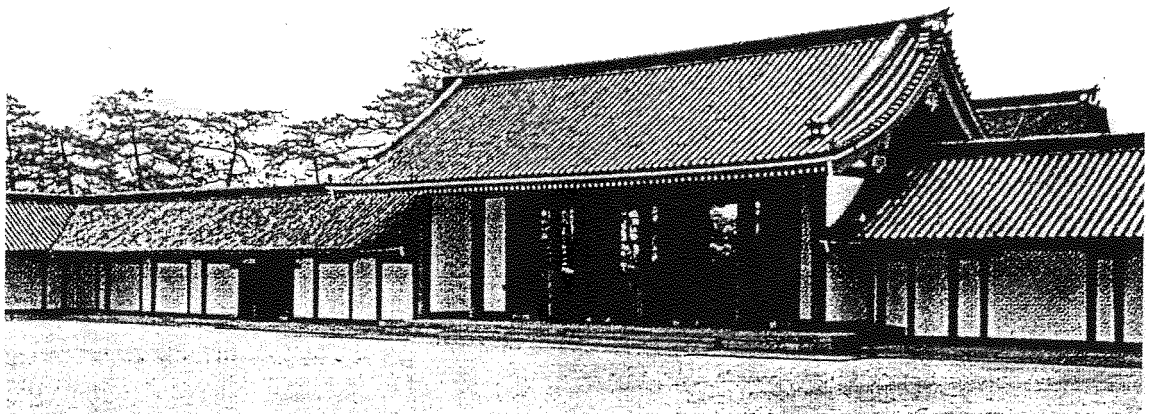


図6 現在の京都御所の承明門と南回廊
 屋根は瓦葺になっている。

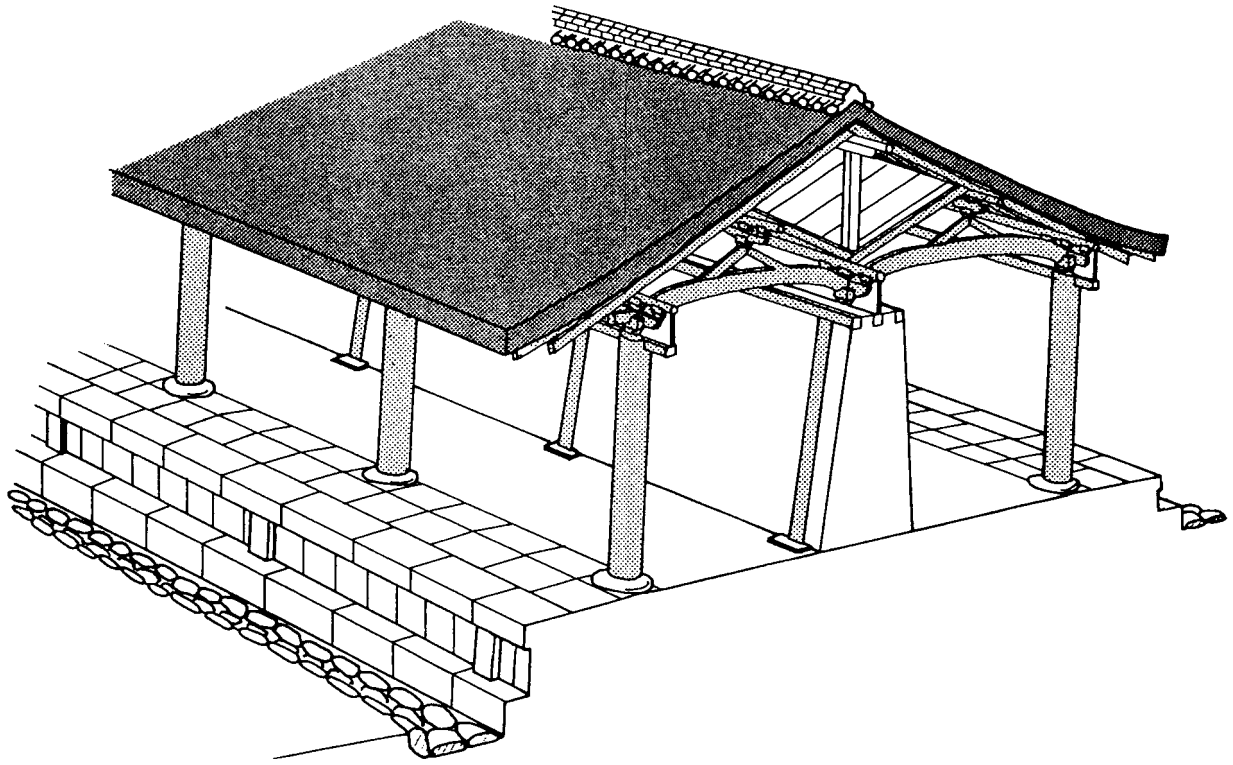


図7 内裏内郭回廊復元図（宮本長二郎・穂積和夫『平城京』から一部改変）

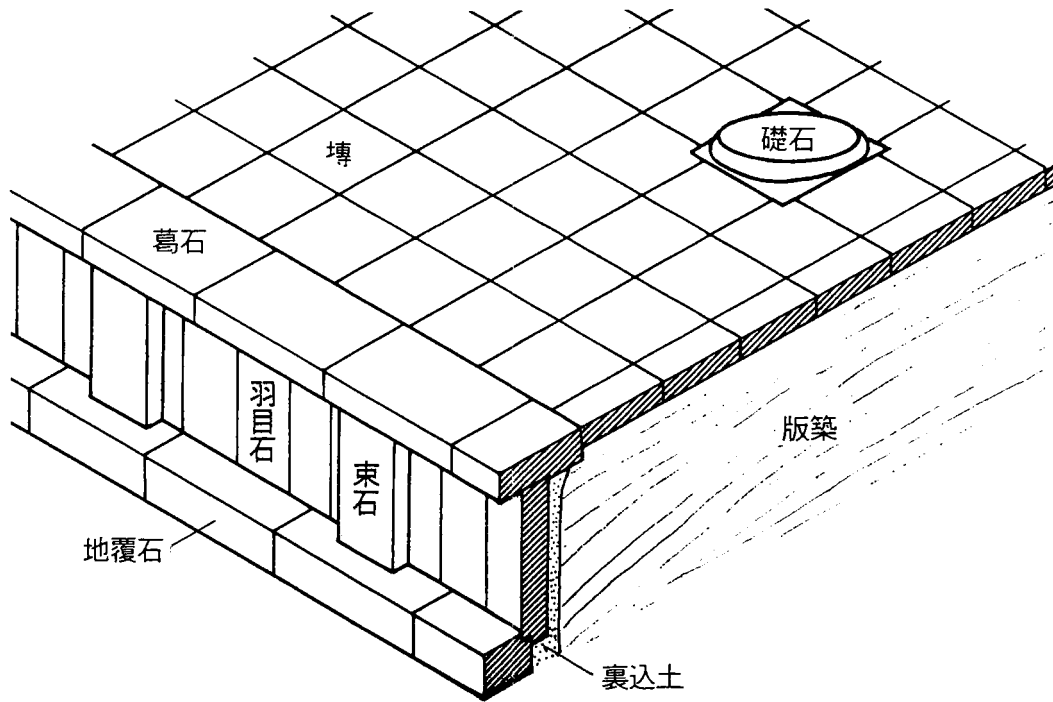
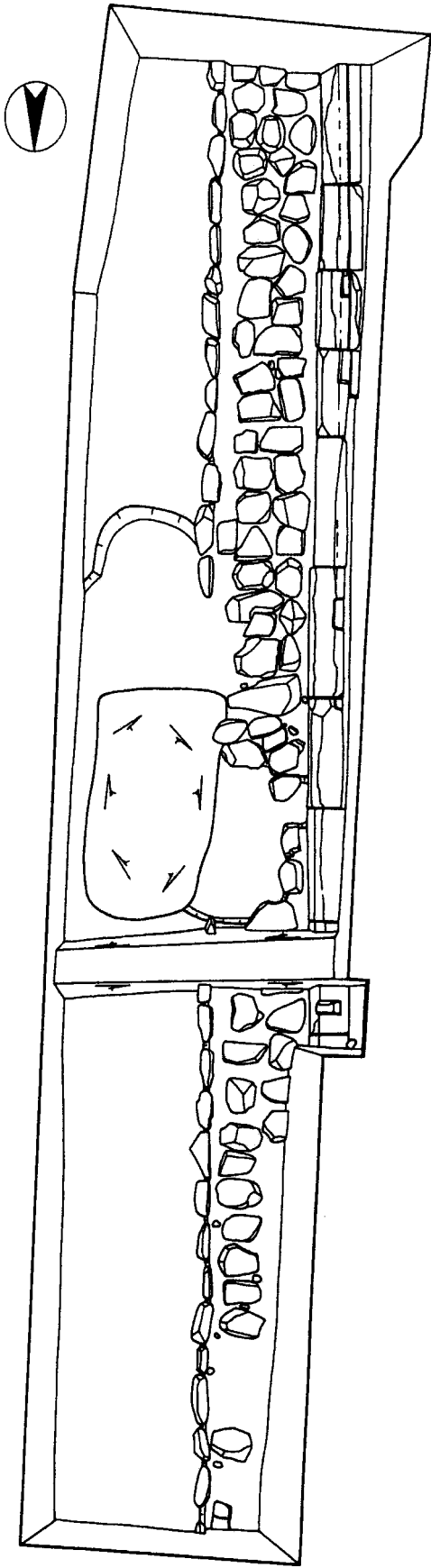
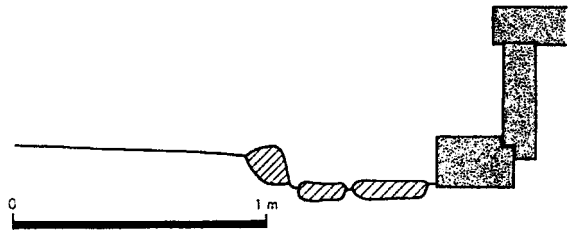
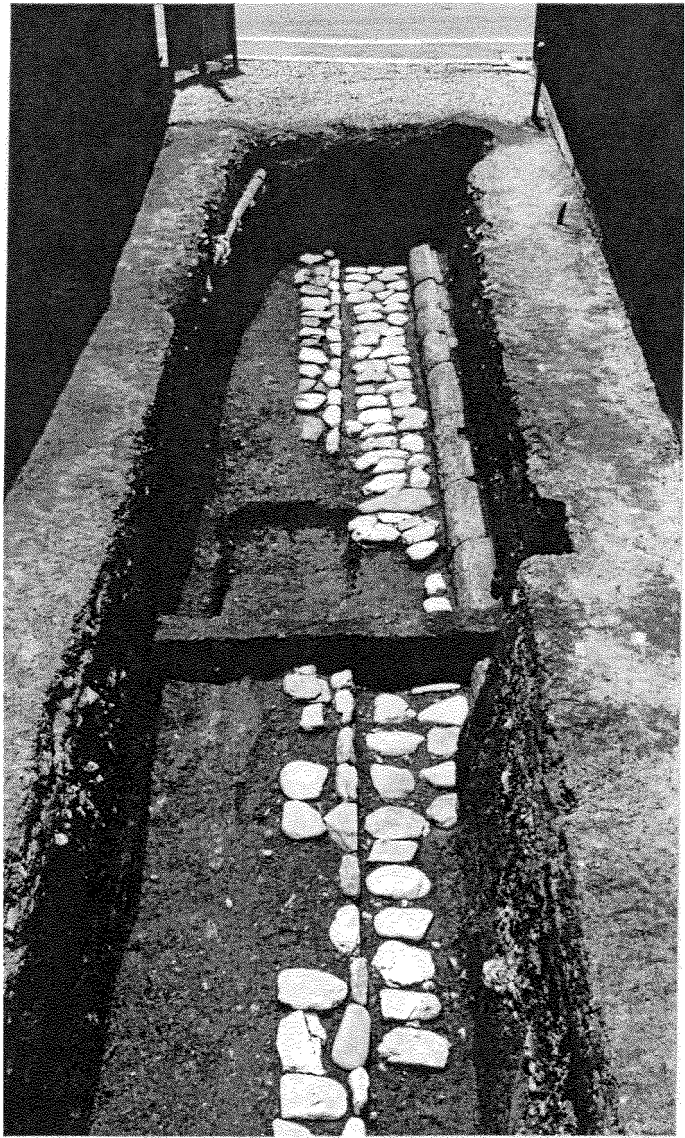


図8 基壇模式図（坪井清足『飛鳥の寺と国分寺』から一部改変）

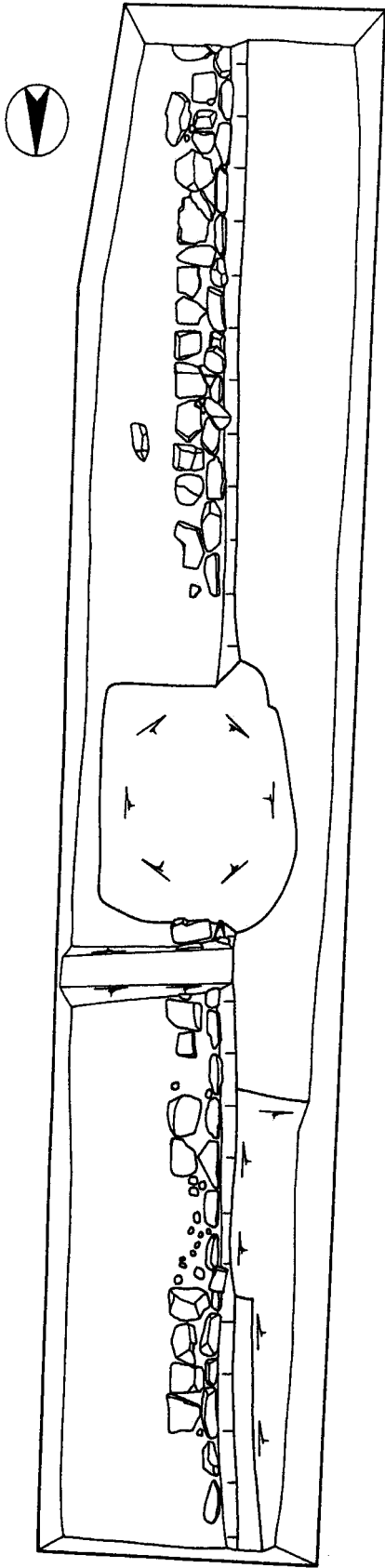


遺構平面図 (1/50)

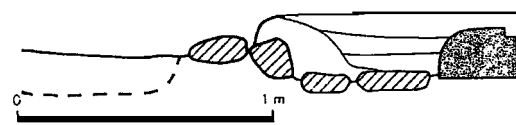
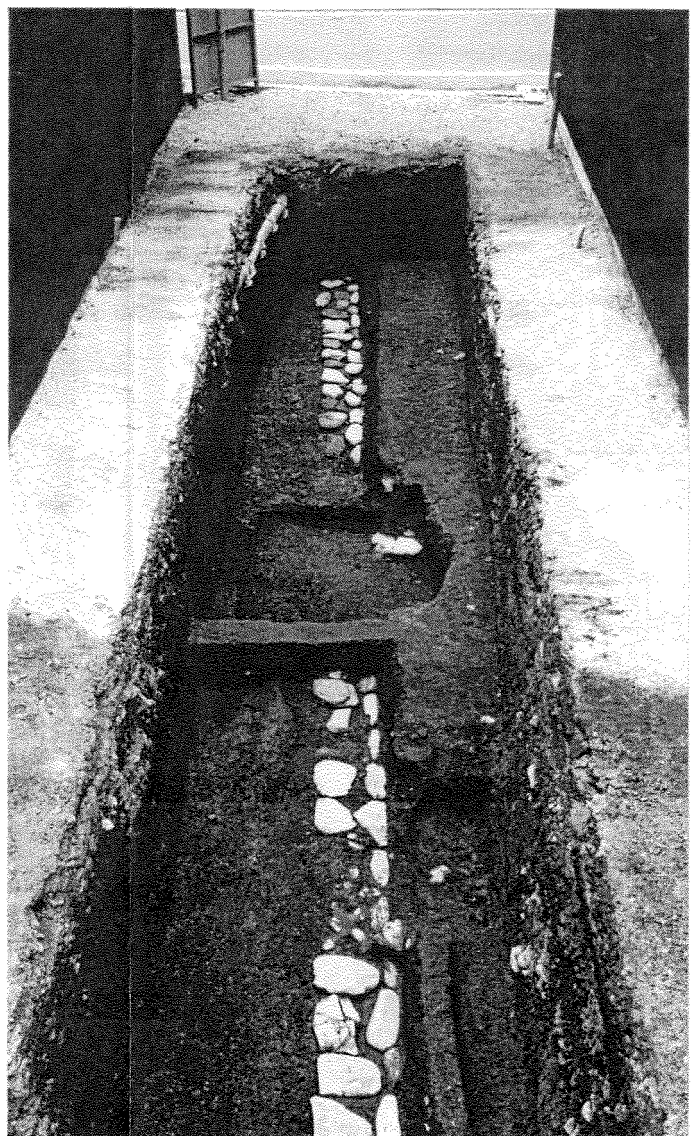


断面模式図

最初の状況

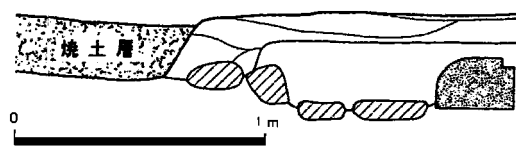


遺構平面図 (1/50)



断面模式図

修築後の状況



断面模式図 (10世紀の火災後)